

以前、こんな話を聞きました。かつてWHO（世界保健機構）が、アフリカにあった、人口数十人の小さな村を調査した時の話です。当時村では、十人子供が生まれても九人は疫病に罹り、大人になる前に亡くなっていました

早速WHOが援助して、さまざまな対策を施し、十人中、九人の子どもは大人になるまで生きられるようになりました。村人も喜び、WHOの職員達も、安堵して帰国したそうです。

それから十年。WHOが、再びその村を調査したところ、村はもう存在しませんでした。原因は、多くの子どもたちが大人になるまで生きられるようになったため、人口が増加し食料不足に陥ったからです。村人達は新しい土地を探し、先祖代々住み続けて来たその村を出て行きました。WHOは、「村人の幸せを願って行なった事が、逆に不幸な結果を招いたのではないか…」と考えこんだそうです。

この村の出来事から、私は「縁起」について思いを巡らせました。縁起とは「縁起が良い悪い」の縁起です。お釈迦様は「この世は『縁起』している世界」とお示しです。それは、「この世で起きる事は、原因と条件、「因」と「縁」とが関わり合い、その結果起きた出来事です。そして、その出来事とはまた別の縁が関わり合って、次の出来事を引き起こす」という教えです。

人間の知恵や考えも及ばない、目には見えないところで様々な原因と縁が、縄を縫（よ）るように関わり合いながら、次々と様相を変えて行く…。そのように、常に「縁起している世界」に私達が生きている事を、アフリカの村の話は思いおこさせてくれました。